

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 213人

② 数学 213人

③ 理科 213人

5 留意事項

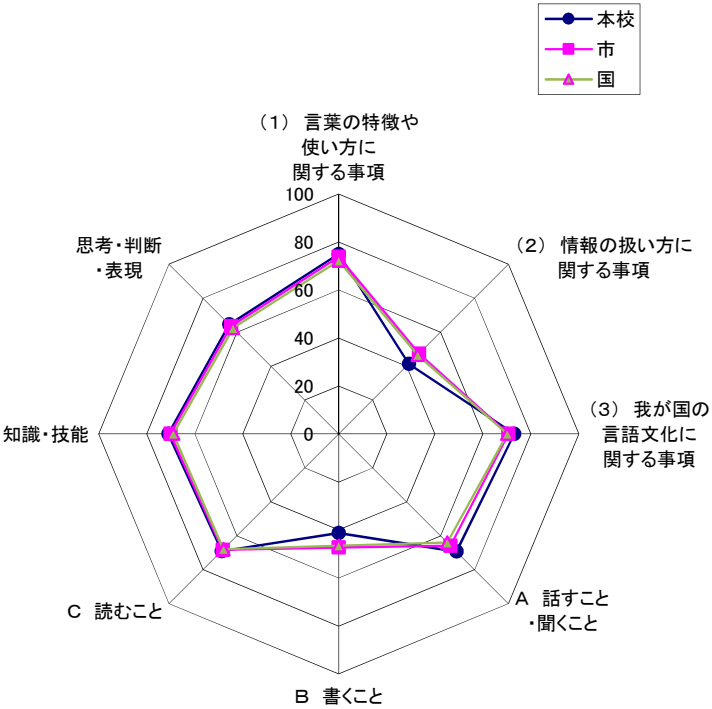
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	41.3	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.1	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	69.3	65.9	63.9
	B 書くこと	41.3	47.3	46.5
	C 読むこと	69.0	68.3	67.9
観点	知識・技能	71.0	70.2	69.0
	思考・判断・表現	64.6	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

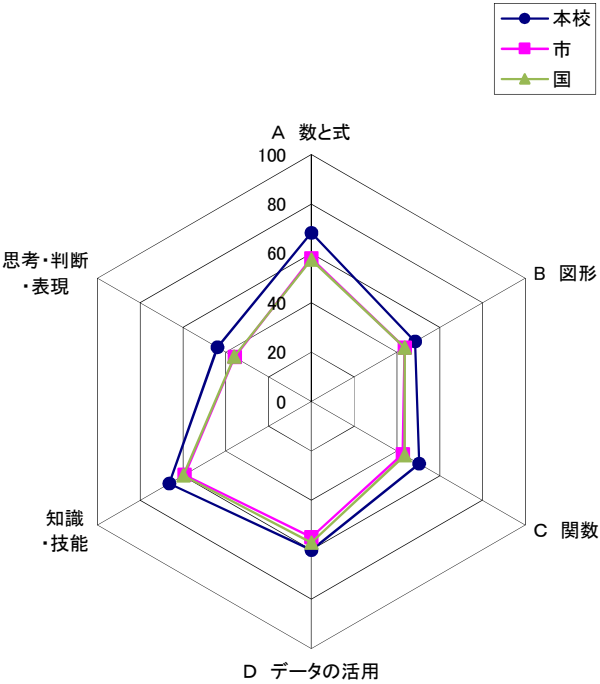
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○「『陽炎みたいに揺らめきながら』に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する」という、「表現の技法について理解する」設問では、全国平均を8ポイント以上上回った。 ●「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのか、そのように話す意図を書く」という設問では、全国平均をやや下回った。	授業で活用するワークシートに「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」項目を取り入れる学習活動に取り入れるようにしていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	●「農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える」では、全国平均から5.2ポイント低くなっている。	授業の中で「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」学習を入れられるよう、ワークシートを工夫していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○すべての項目で全国平均を上回っている。特に、「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」では、「行書の特徴」をよく理解していた。 ●「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」という設問では、全国平均を1.9ポイント上回る程度であった。	「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」については、2年時に学習した行書の書き方を振り返り、毛筆で書いた文字を硬筆で学び返せるようにさせたい。
A 話すこと・聞くこと	○この領域の2つの設問で、正答率が全国及び市平均を上回っている。特に、「話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する」という設問では、全国平均を11ポイント上回っている。 ●「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのか、そのように話す意図を書く」では、国の正答率より、0.6ポイント低くなっている。	グループでの話し合い活動などでは、「評価しながら話を聞く」「話し合いを効果的に展開する」ことをねらいとして、振り返りのワークシートを活用し、論点を整理したり、進行の仕方を工夫させたりしていく。 また、体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考えさせる授業を展開していく。
B 書くこと	●「農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える」という、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」設問では、全国平均から5.2ポイント低くなっている。	「知識や体験をもとに内容を膨らませ、文章形式を選んで書く」「対象を観察・分析して必要な情報を引用し意見文を書く」などの学習活動を授業に取り入れ、分かりやすい例示と平易なワークシートづくりに努め、生徒に積極的に取り組ませる。
C 読むこと	○「話の展開に沿って『おれ』の行動や心情を並べ替える」という設問では、全国平均を2.8ポイント上回っている。 ●「『おれ』は何を『なるほど』と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く」という設問では、全国平均より正答率が0.6ポイント低くなっている。	文学的な文章の読解力の向上は、読書量によるところは大きい。朝の読書の推進に努めるとともに、教科書の教材を通して読書への興味・関心を高められるよう指導を工夫していく。 説明的な文章の読解については、段落ごとの要旨をまとめたり、段落相互の関係を捉えたりするなどの基本的な活動に加えて、文章論理について批判的に読み、自分の考えをまとめられるような活動を取り入れていく。

宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	68.3	58.0	57.4
	B 図形	48.5	43.6	43.6
	C 関数	50.4	42.7	43.6
	D データの活用	60.1	54.9	57.1
観点	知識・技能	66.5	59.3	59.9
	思考・判断・表現	43.9	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

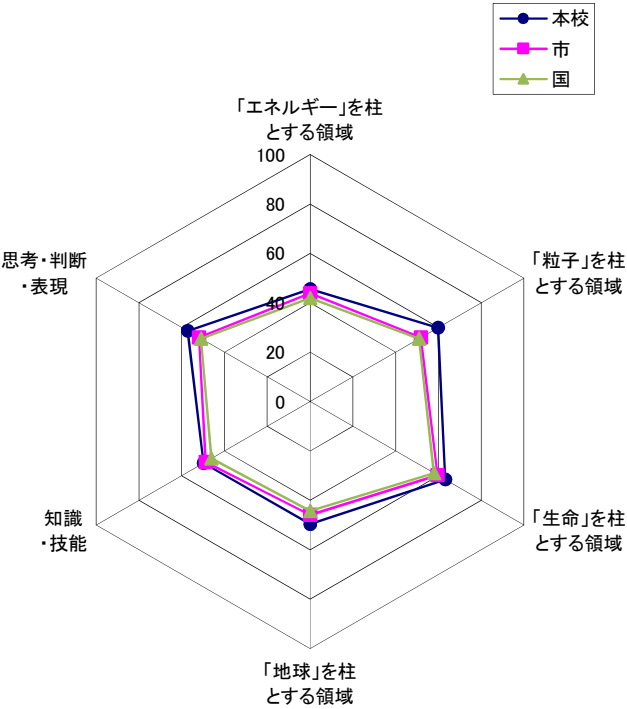
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は、全国の平均よりも10ポイント以上高い。特に平均正答率の低い設問において、全国の正答率よりも14ポイント上回っている。 ○計算をすることがよくできている。また、式の意味を理解し、説明することもよくできている。計算問題をたくさん練習してきたこともあるが、疑問に思ったことや気付いたことの理解を深めている生徒が多い。	・引き続き基本的な計算の定着に向けた練習を行うとともに、生徒の状況に応じて、複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、個に応じた指導の充実を図る。 ・グループでの話し合い活動を取り入れ、答えに到達するまでの手順や考え方を説明する場面を設定し、自分だけでなく、他の考え方を聞き、多面的な思考を身に付けさせたい。
B 図形	平均正答率は、全国の平均よりも4.9ポイント高い。すべての設問において、平均正答率を上回っている。 ○三角形の合同条件や角の大きさを説明する設問では、全国よりも6ポイント以上上回っている。補足問題を多く取り入れ丁寧に扱った成果であると考えられる。	・補足問題を引き続き多く取り入れ、知識の定着を図る。 ・図形においては、ICTを活用し、図形の見え方の変化などの理解を深める活動を取り入れる。 ・証明や説明をする問題では、手順だけでなく、証明完了までの道筋を立てることに注力させ、見通しを立てることの大切さを理解させたい。
C 関数	平均正答率は、全国の平均よりも6.8ポイント高い。すべての設問において、平均正答率は上回っている。 ○一次関数の変化の割合についての設問では、全国よりも8ポイント以上上回っている。変化の割合の意味やそれらの値の変化による特徴を取り上げた成果であると考えられる。	・実際にグラフを描かせたり、グラフの特徴やグラフから読み取れることを説明させたりする活動を継続して行わせ、関数の知識と理解を深めさせたい。 ・「自分がどのように解いたか」を発表させたり、グループ学習や言語活動を多く取り入れたりと、生徒自身が説明する場面を多く設定し、解答の過程に焦点を置いた指導を行う。
D データの活用	平均正答率は、全国の平均よりも3.0ポイント高い。ヒストグラムの特徴を説明する設問において、全国の平均正答率より1.3ポイント下回っている。 ○箱ひげ図のデータの読み取り問題の設問においては、全国の平均正答率を6.6ポイント上回っている。授業で箱ひげ図を作成し、理解を深めた生徒が多かったことがその理由であると考えられる。 ●データの活用の範囲は、定着を図る工夫が必要であると考えられる。	・頭の中で考えるだけでなく、データを視覚化し、それを読み取っていく場面を多く取り入れ、理解を深めさせていく。 ・定期的に補充問題を取り入れ、復習できる機会を増やしていく。

宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.5	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	59.8	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	63.2	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	49.6	45.9	44.3
観点	知識・技能	49.8	48.8	46.1
	思考・判断・表現	57.2	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は市より1.7ポイント、国より3.6ポイント高くなっている。 ○燃料電池に関する問題の正答率が比較的高く、化学変化の原理を理解して解答することができている。 ●重力とつりあう力を正しく選択する問題の正答率が比較的低く、力のつりあいについての理解が不十分であることが予測される。	・観察・実験を今後も豊富に行い、実体験をもとにした理解をさせる。 ・粒子概念はICTなどを利用してモデルで示してイメージをしやすいようにする。 ・力のつり合いなどの分野では、作図を多くさせるなど時間をかけて指導する必要がある。
「粒子」を柱とする領域	正答率は市より8.0ポイント、国より7.9ポイント高くなっている。 ○状態変化による温度変化を考察する問題の正答率が比較的高く、原理からよく理解していると言える。	・身近な事物現象と関連させながら、学習をさせる。 ・粒子概念はモデル図などを用いて可視化して理解をさせる。 ・原子や分子、イオンなどのところで原子同士の結びつきなどもICTなどでイメージさせながら学習をさせる。
「生命」を柱とする領域	正答率は市より3.6ポイント、国より5.3ポイント高くなっている。 ○アリの視覚に関する実験において、仮設と異なる実験結果が出た場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験操作や条件制御の不備の可能性を指摘する問題の正答率が比較的高く、科学的に思考することができていると言える。	・節足動物の体のつくりや働きについて、観察を通して生活の場所や移動の仕方と関連させながら理解させる。 ・昆虫類と甲殻類の共通点と相違点について、様々な生物の観察により理解させる。
「地球」を柱とする領域	正答率は市より3.7ポイント、国より5.3ポイント高くなっている。 ○大地の変動に関する問題の正答率が比較的高く、水平方向と垂直方向の2つの方向について考察することができていると言える。 ●玄武岩の露頭で化石の観察ができるかを問う問題の正答率が比較的低く、岩石についての理解が不十分であると言える。	・火成岩や堆積岩の特徴について、岩石標本の観察を通して理解させる。 ・地層の広がりや傾きについて、地層の断面図やルートマップを使用者の分析・解釈により科学的な思考を深めさせる。

宇都宮市立泉が丘中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は87.8%であり、食育を通して、体を作るためにしっかり食べることは大切だと学べたからと考える。食に関しては、学校生活のあらゆる場面で、栄養教諭を中心として、学べる工夫がされている。

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒が全国・栃木県の結果よりも高く、規則正しい生活をしている生徒が多いということがわかった。小さいころからの生活習慣が身についてきたということの表れであると考えられる。

○「自分には、良いところがあると思いますか」肯定的回答率、本校53.1%、栃木県39.5%、全国36%「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」肯定的回答率、本校61%、栃木県49.6%、全国39.9%と本校生徒の肯定的回答率が高かった。この2項目でも肯定的にとらえている生徒が多く、自分を大切にしながら、素直な心を持って生活しているのではないかと考えられる。

○「学校に行くのは楽しい」と回答した生徒が全国・栃木県と比べて多く、全国では45.8%であったが、本校では59.2%であった。「友達と協力するのは楽しい」と回答した生徒も多く、全国では66.2%であったが本校では77.9%であった。友達の良さを認め合い、良好な交友関係が結んでいるからではないかと考えられる。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、2時間以上と答えた割合は38.1%と栃木県、全国よりも約3%高い。しかし、3時間以上となると8%であり、全国よりも約2%低い。「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では3時間以上と答えた生徒は全国7.1%に対し本校は15.5%と高い。週末に多くの時間を取り予習復習の時間に当てている生徒が多いことが分かった。

宇都宮市立泉が丘中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	授業で、定期的に宿題を出すことにより、基礎基本の定着を図っている。 努力のあと（成績表）に、本人の振り返り欄を設けたり、月1回実施の確認テストに向けて、課題を与え、家庭学習の大切さに気付かせている。	3年生では、週末に時間を取り学習している生徒が多いことが分かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
ICT機器を利用した学習の工夫	積極的に授業の中でタブレットを活用	調べ学習、友達や教師との意見交換等での利用